上田女子短期大学における図書館実習

－職業意識の形成と進路選択－

木　内　公一郎

抄録：図書館実習やインターンシップを教育学の古典であるデューイの思想から見直し、学校と社会の均衡を保つための手段として位置付けた。その上で学生の職業選択や進路選択にインターンシップが影響を与えていることを実証した。

目次

1．はじめに
2．デューイの教育観と職業観
3．職業能力
4．インターンシップ
5．短期大学の教育
6．インターンシップの種類
7．上田女子短期大学のインターンシッププログラム
8．アンケートの分析
9．結論
10．付録資料「図書館実習に関するアンケート調査」

1章 はじめに

図書館実習やインターンシップは学生の就職活動や職業への理解を深めるために多くの大学・短大で実施されている。インターンシップとは「学生が在学中に、教育の一環として、企業等で、企業等の指導のもと、一定期間行う職業体験およびその機会を与える制度。」[1]のこという。

全国的なインターンシップの参加状況[2]を調べると以下のような状況になっている。大学、短大とも昨年より増加している。

表 1　インターンシップの参加状況（平成17年度）

大　学	447校　62.5%	昨年比 3.5%増
短　大	157校　37.8%	昨年比 2.5%増

表1を見るとおり、今後も増加していくことが予想される。

インターンシップが適職や進路開拓にどのような影響を与えているのであろうか。この小論では、上田女子短期大学における図書館実習を題材にして、教育活動としてのインターンシップについての研究を行う。

図書館の求人に関しては全国的にみても、少数である。そのため図書館司書資格を取得しても、図書館に就職することはほとんどできない。さらに図書館実習を実施し、専門的な知識と技術を身につけたとしても、それを発揮する場所はない。そのような状況のなかで、必修ではない実習を実施する意味を現実的に追求することが必要である。以上のような問題意識から教育と職業の関連という視点から見直すことにした。研究方法としては教育学の古典的理論を援用し、本学図書館実習の参加者に対してアンケート調査を実施した。その結果に基づいて結論をまとめていきたい。

2章　デューイの教育観と職業観

インターンシップについては、アメリカが源であると言われている。しかし、思想的な源流についてはほとんど探求されていないようである。しかし、古典的な教育学者であるデューイの思想は、現代のインターンシップの源流として解釈することが可能である。なぜならばデューイは社会と学校の均衡という思想を常に基本にしていたからである。

「共同社会（コミュニティ）すなわち社会集団が、絶え間ない自己更新を通して自己を維持するということ、そして、この自己更新は、その集団の未成熟な成員が教育を通して成長することによって、行われるということであった。」[3]社会にとって子供たちに教育を行うということは社会を維持発展させていく上で極めて重要である。これはデューイの教育の基礎をなす考え方である。

「社会的環境は、一定の衝動を呼び醒し、強化し、また一定の目的をもち、一定の

結果を伴う活動に、人々を従事させることによって、彼らの中に知的および情動的な行動の諸傾向を形成する、ということである。」[4]社会には教育機能がもともと備わっている。学校については、

1）学校は複雑な社会を単純化したものでなければならない、

2）さらに望ましくないものを学校から除去する

3）自分の生まれた社会集団の限界から脱出して、いっそう広い環境と活発にしてあげるための機会を用意すること[5]が要件である。「教育哲学がとりくまなければならない最も重要な問題の一つは、教育のあり方の、非制度的なものと制度的なものとの間の、付随的なものと意図的なものとの間の、正しい均衡を保持する方法である。」[6]

制度と非制度、意図的な教育と付随的な教育の間のバランスがとれていることの必要性を説いている。この問題は現代日本の学校制度が抱える問題に繋がる。学校が地域や社会との接点をなくし、孤立していること。家庭や社会が教育機能を果たすことができずに学校という制度に偏った非均衡に陥っていることへの問題提起としてとらえることが可能であると思われる。

やがて社会の未成熟の成員が社会の一員として成長すると職業をもち、社会に対して奉仕を行うようになる。この職業と教育に関連して、デューイは次のようなこと述べている。職業の定義として「職業とは、ほかの人々に対して奉仕をし、いろいろな成果を達成するための個人の能力を使用するようなあらゆる連続的活動である。」[7]

さらに「仕事(occupation)は、連続性を表す具体的な用語である。それには機械的労働をすることとか、収入のある職に就くことは言うまでもなく、専門的な仕事や実業的な仕事ばかりでなく、あらゆる種類の芸術的才能、専門的・科学的能力、有能な市民としての権能の発揮をも含まれるのである。」[8]職業とは個人の能力を活用しながら、社会や他人に奉仕を行う活動のことである。仕事とは労働し、収入のある職に就くということ以外にも、人間の芸術、専門、科学的な能力を発揮するということも仕事である。そのような諸能力を発揮して、市民として社会に対して有益な活動をすることも仕事であるとしている。例えば収入がなくても、ボランティアとして社会に関わることもデューイが定義する「仕事」である。

「仕事とは、目的をもつ連続的な活動である。したがって、仕事を通じての教育は、

ほかのどんな方法よりも、学習を促す要素をたくさんその内部に結合しているのである。それは、本能や習慣を活動させる。（略）活動の進行は前進的であり、ある段階から別の段階へと進んで行かなければならないから、各段階で、障害を克服し、実行手段を発見したり適用し直したりするために、観察力や発明力が必要になるのである。要するに、仕事は、単なる外的な成果よりも、むしろ活動の実現が目標であるような情況の下で遂行されるのであるから、前に目的や興味や思考について論じたときに、それに関連して述べた必要条件を満たしているのである。」[9]

職業に就くことによって学校における学習がさらに発展し、自ら進んで情報を取得し、知識を体系化させることを志向するようになる。学校における学習だけでは現実的な学習にはならないことが示唆されている。

教育と一般社会の均衡および仕事がもたらす効用ということを考慮していくと実習やインターンシップの位置づけが見えてくる。図１はその基本的な考え方を表したものである。

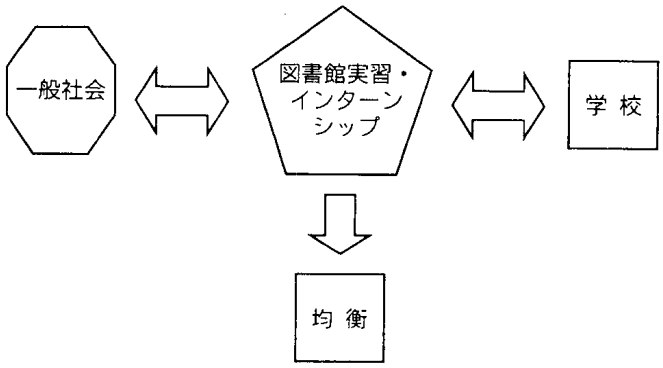


図 1　教育の均衡とインターンシップ

学校と一般社会を連結する要素としては保護者や地域の市民が学校の運営に関わることや、ほかの分野で活躍している社会人を教員として迎えることもすでに実施されている。図１にはこれらの要素も入ってくるが、この小論では職業教育という側面から見た時に、インターンシップが均衡を保つ要素として最も影響力があると判断したため、図の中心に据えたものである。

「仕事は、個人の独特な能力を彼の社会的奉仕に調和させる唯一のものである。自

分に適した仕事を見出し、その仕事をする機会を獲得することは、幸福への鍵である。自分の本当の一生の仕事を発見しそこなうこと、つまり、周囲の事情に押し流されたり、強制されたりして、自分の性に会わない職業についてきたことに気づくことほど、悲劇的なことはない。正しい仕事とは、ある人の才能が十分に活動しており、最小限の摩擦と、最大限の満足を伴って働いている。」[10]

正しい仕事とは一人ひとりの才能を発揮し、最大限の満足を感じることができる。

学生たちがデューイで述べたような広い意味における適正な職業選択し、豊かな人生を送ることは教育に携わる者としての最大の願いである。

学生たちが就職を果たすためには、在学中に社会人としての能力の基礎を身につけることが大切である。現在、社会人としてどのような能力が求められているのであろうか。

3章　職業能力

これについては國學院短期大学の椿明美氏[11]が次のように述べている。

1）必要なことを明瞭に伝達し、より良い人間関係を築くことのできるコミュニケーション能力。

2）マニュアルに従って職務を遂行するだけでなく、自ら思考して物やサービスを作り出す創造力、

3）職務上何が課題であるかを見抜き、その課題を処理していくための問題発見・問題解決能力、

4）なぜ働くのか、自分の人生において職業がどのような意味を持つのかという職業意識確立があり、職務遂行にあっては専門知識をもって最後までやり遂げるプロ意識、

5）様々な業務処理の基礎知識を基に、情報の収集・分析・処理や一般の文書業務などをパソコン等の機器を自在に操り、スピーディに処理する能力、

6）社会人として、企業人としての常識を備え、業務を円滑に進めるためのモラルやマナーなどを身につけている。

コミュニケーションやコンピュータは技術の問題であり、ある程度訓練することで

身につけることができる。しかし、「なぜ働くのか」「自分が就く職業にはどのような意味があるのか」ということは学生個人の自主的な行動と思考が必要である。上から押し付けることによって理解できることではない。自分で考え、行動し、経験することで現実との擦り合わせし、考えを改めていく。思考と行動のサイクルを作ることが、職業への関心を高め、なおかつ適職に近づくことになるのではないだろうか。

このことはデューイが述べていた「仕事を通じての教育」にも関連する。連続的な活動のなかで自分に必要な情報を集め、知識を体系化していくには仕事をしながら、思考し行動することが、学生の職業意識の高めることにつながっていく。

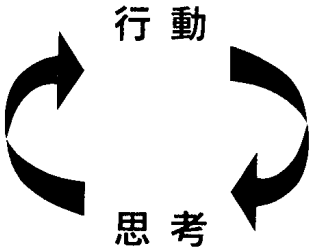


図2　思考と行動のサイクル

4章　インターンシップ

デューイは「自分に適した仕事を見出し、その仕事をする機会を獲得することは、幸福への鍵である。」と述べている。適職を探し、就職することを学生自身が気づき、達成すること、そしてそれぞれの職業の意味を知ること、自らの適性を知ること、才能に気づくことは決して容易なことではない。思考と行動のサイクルを作ること、それが今回のテーマである図書館実習やインターンシップであると考えている。この章ではインターンシップが注目されている様々な背景を説明する。

1節　経済および社会的な背景

冒頭で述べたようなインターンシップの増加の背景には政府の施策が関係している。「経済構造の変革と創造のための行動計画」（閣議決定1997年）では1990年代後半のバブル経済崩壊後の新しい産業構造に対応する人材の育成が政府の方針として打ち出された。その中にインターンシップを推進することを強調している。

2節　大学・短大の事情

大学・短大側の背景には学生の就職活動支援サービスの一環として導入されていることが関係している。就職率は受験生が大学を選択する際の重要な条件になっている。大学・短大としてはなるべく就職率を上げたいと考えていることが背景にある。さらに学生をフリーターやニートにしたくないという意思も働いている。

また文部科学省が推進する優れた教育プログラムへの補助金制度がさらにインターンシップの導入に拍車をかけている。

現代GP(Good Practice)・特色GP[12]は社会性、特色ある教育プログラムに補助金を交付する制度である。そのなかで学生の地域貢献や就業体験を入れた教育プログラムが採択されることが多くなっている。

インターンシップが大学の地域貢献や大学の教育改革にプラスなる要素として認識が広まりつつある。またインターンシップを通じて企業等の実社会との結合を強めることによって、職業教育の重要性を認識する作用も働いている。

3節　企業側の事情

大量の一括採用から少数精鋭・厳選採用の傾向が強まっている。特に就職協定廃止後、採用活動は長期間にわたる。そのため採用手段として実習生を受け入れる企業も多い。優秀な人材を見極める手段としてインターンシップを導入している。または企業の社会的責任から受け入れているところも多い。

5章　短期大学の教育

このような状況のなかで短期大学も学生のキャリア形成に向けて努力を重ねている。学校教育法　第69条2（短期大学の目的）には「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は実際生活に必要な能力を育成すること」と規定されている。これを読むと短期大学の目的の半分は職業教育と社会人としての能力向上を念頭においていることがわかる。先ほどの統計をみると、短大の実施率は4年制大学より25%以上も低い。しかし、インターンシップの導入が必要なのは短期大学である。なぜならば、2年間で社会人としての準備をしなければならないからである。実質的には1年生の後半から始まる

就職活動を考えると遅くとも1年生のうちに適性や才能を自覚し、適職を発見しなければならない。それにはインターンシップを通じての適性や才能の自己発見が効率的ではないであろうか。また自ら身をもって、仕事の難しさを体験することで意識の改革を急速に行うことができる可能性がある。

6章　インターンシップの種類

インターンシップは専門実習と一般実習の2つに分類することができる。専門実習は保育士、教諭、医者など資格や免許を取得するために教育課程において現場における実習が義務づけられている。

一般実習は企業等で行われる業務の見習いである。期間は1週間から1ヶ月程度といわれている。企業は採用活動の一環として、インターンシップを実施していることもある。一般的には大学、短大からの受け入れ要請に基づき、学生を受け入れている。この講演のテーマである図書館実習はインターンシップの一類型である。しかし専門実習なのか、一般実習なのかという点では大変曖昧である。

図書館司書課程においては実習の規定自体が存在しない。専門職養成のプログラムでありながら、実習科目がないのは問題である。以前から問題点として指摘されてきたが、日本図書館情報学会が2005年に「情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究」[13]を発表した。この報告のなかで新しい図書館司書課程が提案されている。そのなかではコア領域に「インターンシップ」（図書館や様々な情報機関）における実習が含まれている。

7章　上田女子短期大学総合文化学科のインターンシッププログラム

1節 学外実習

1）学生たちが学外に出て、実習を行う制度である。夏期休暇・春期休暇期間中に希望する図書館において一週間以内で実習を行っている。

2）「図書館特論」（司書課程2年選択科目）

図書館司書課程の乙科目の「図書館特論」（1単位）の内容を図書館実習にしている。事前事後指導に出席し、1週間以内の学外実習に参加することで単位

認定をしている。

3）「観光インターンシップ」（総合文化学科専門科目1年後期必修）毎年11月

一般企業や商店、図書館、市役所など多方面で業務体験を行っている。この中で地域の学校図書館や公共図書館において実習を行っている。

2節　学内実習

本学の図書館において3日間の業務見習いを行う。司書課程1年生の必修プログラムである。短大の図書館司書が指導し、1日目書架整理、2日目目録作成、3日目分類作業を体験する。「資料組織演習II」の実習版である。

これらの機会をすべて利用すると2年間の間に5回の図書館実習に参加することができるようになった。ただし、図書館実習にしても、インターンシップにしても3名の教員（図書館の場合は筆者1名）受け入れ先を開拓しており、大変な業務量になっていることを付け加えておきたい。

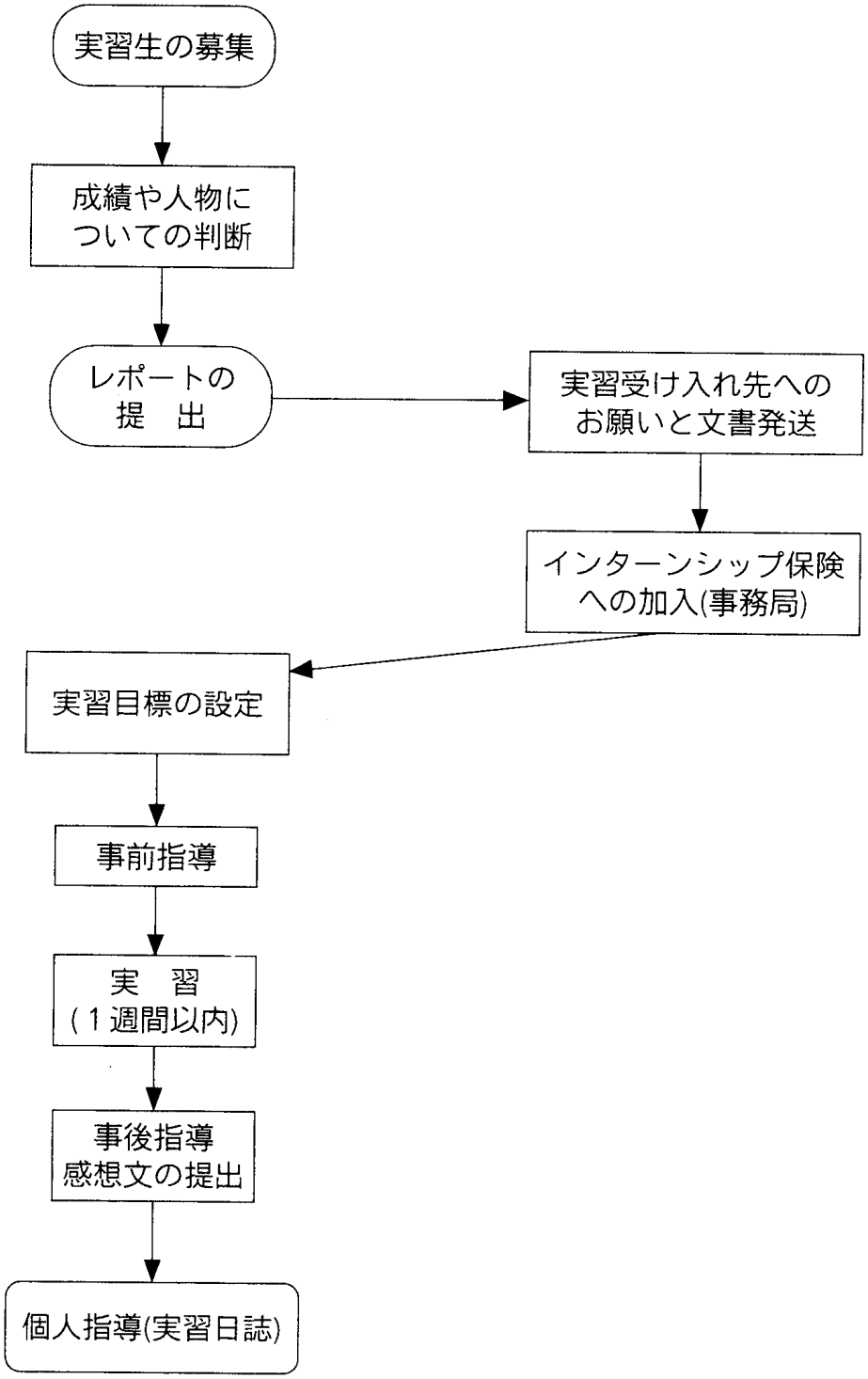
2004年から2006年度の実績を報告する。これには「観光インターンシップ」における図書館実習も含まれている。

表2　図書館実習参加者数（館種別）

	公共図書館	学校図書館	短大図書館
2004年度	3名	1名	司書課程1年生（必修）
2005年度	30名	3名	司書課程1年生（必修）
2006年度	19名	5名	司書課程1年生（必修） 2年生2名

次のフローチャートは実習のプロセスを説明したものである。

図3　実習のプロセス



実習生の募集は実習の数ヶ月前から始まる。あくまでも、希望者を募るだけであり、強制的な参加はさせない。希望者は実習を希望する図書館を用紙に記入する。希望者については、成績や人物から参加させても問題のない学生のみ選択している。ただし

滅多に参加を断ることはない。事前指導の一環として学生は希望する館種に関係する図書1冊を読み、レポートを提出する。実習先への受け入れ要請は文書で行う。遠隔地の図書館の場合には学生自身が事前に内諾をもらってくるように指導することもある。承諾を得ることができたところで、インターンシップ保険への加入を事務局に依頼する。

学生はそれぞれ実習目標を設定する。実習目標は期間中、中心的に学びたいこと及び経験してみたい業務を列挙させる。

そして実習直前の2週間前くらいに事前指導を行っている。挨拶の仕方などのような社会人としての基本マナーや業務内容の説明を1時間かけて行う。実習期間中は図書館情報学担当教員または総合文化学科教員が挨拶と学生の視察をかねて、訪問する。

実習中の学生は実習日誌に毎日の業務と反省を記入するように指導している。実習終了後には指導された先生または司書の方に評価をつけていただいている。短大に戻った後は感想文の提出またはアンケートの提出がある。最後に実習日誌の評価に基づく個人指導を行う。現在までのところ、大きなトラブルもなく実施できている。

このような多大な労力をかけて行っている図書館実習がどのような成果、特に学生の進路決定にどのような影響を及ぼしたのかという点を学生へのアンケート調査をもとに報告する。これは昨年１１月に実習に参加したことのある2年生に実施した。その結果の一部報告する。

8章　アンケートの分析

アンケートフォームは以下の2つの部分から構成されている。

① 図書館実習の内容や経験にかかわる質問

② 図書館実習の影響に関する質問

そして業務経験からどのような知識を獲得していたのか、さらに実習の経験が職業の選択にどのような影響を与えていたのかを3人の学生のアンケートから読み取り、分析した。

事例分析1

2年生Aさん：公共図書館・短大図書館

質 問 1：司書に対するイメージは変わりましたか。回答：YES

コメント：ほとんどカウンターにいたり、ほとんど座って物静かに仕事をする人というイメージでしたが、実際は重い本を持ち、動き回ることもあるし、仕事の内容がたくさんあり、頭も体もよく使うハード!?な人であると思いました。

質 問 2：実習後、授業に対する姿勢や取り組み方は変わりましたか。回答：YES

コメント：ひとつひとつの業務には別の業務の上で活かすことのできる意味がふくまれているということを学ぶことができ、1時間1時間の講義内容（特に演習）に対しての見方や考え（追求する気持ち）が強くなり（広がり）ました。

質 問 3：実習後、「社会人として働く」ことに対してあなたのイメージや考えは変わりましたか。回答：YES

コメント：どのような仕事であっても同じ職場の仲間との協力が大切、必要であると感じました。

卒業後の進路：金融業

理　　由：司書に関して勉強不足を感じていたとともに、これまであまり目を向けることのなかった業界に目を向けてみたいと思ったため。また、いつか司書として働きたいと思っているため、人と接すること、社会で出るということに関して金融業界で学んだことを司書になって活かせることもあると思ったため。

質 問 4：進路を決定した理由に図書館実習の経験が少しでも影響を与えましたか。回答：YES

コメント：落ち着いた（静かな）環境での仕事が向いていると思った。お客様（人）のために、実際に接しながら行う仕事が好きであると思った。

この学生は金融業への就職が内定している。実習を通じて、職業と仕事に対しての意識を具体化していることがわかる。例えば「ひとつひとつの業務には別の業務の上で活かすことのできる意味がふくまれている」という意見は問題発見・問題解決能力

に繋がる意識の深化を表現している。また「どのような仕事であっても同じ職場の仲間との協力が大切、必要であると感じました。」という意見からは社会人としてのマナーやチームワークの理解をしていることがわかる。

事例分析２

２年生Bさん：公共図書館、学校図書館

質 問 1：司書に対するイメージは変わりましたか。回答：NO

質 問 2：実習後、授業に対する姿勢や取り組み方は変わりましたか。回答：YES

コメント：実習中に利用者の方から聞かれた質問に、ほとんど答えられなかったので、レファレンスサービスについて、もっと知らなければならない事がたくさんあると感じました。「レファレンスブックスの評価」など、取り組む姿勢が少し変わったのではないかと思います。

質 問 3：実習後、「社会人として働く」ことに対して、あなたのイメージや考えは変わりましたか。回答：NO

卒業後の進路：サービス業

理　　由：自分の能力を最大限に活かせそうだから。

質 問 4：進路を決めた理由に図書館実習の経験が少しでも影響を与えましたか。回答：YES

コメント：実習中に「事務に向いているかもしれない」と感じました。でも結局はサービス業が向いていることに気付きました。

Aさん、Bさんとも実習を自分に適した職業を探求する場として、活用している。特に「実習中に『事務に向いているかもしれない』と感じました。でも結局はサービス業が向いていることに気付きました。」からは実習中や実習後に自分のなかで、心のなかで様々な葛藤があったことが推測される。

事例分析３

２年生Cさん：公共図書館、学校図書館

質 問 1：司書に対するイメージは変わりましたか。回答：YES

コメント：学校の司書の先生について、何も知らなかったということを知りました。

質 問 2：実習後、授業に対する姿勢や取り組み方は変わりましたか。回答：YES

コメント：実習に行った後ではやる気が変わります。

質 問 3：実習後、「社会人として働く」ことに対してあなたのイメージや考えは変わりましたか。回答：NO

卒業後の進路：サービス業

理　　由：必ずしも司書になれるわけではないという、市の職員にはなりたくなかった。

質 問 4：進路を決めた理由に図書館実習の経験が少しでも影響を与えましたか。回答：YES

コメント：お客様（利用者）の方と直接かかわれる仕事に向いていると気づいた。机にずっと座っているのには性にはあわない

質問4のコメント「お客様（利用者）の方と直接かかわれる仕事に向いていると気づいた。机にずっと座っているのには性にはあわない」では自分の性格とサービス業の行動パターンをよく考え、理解している。

9章　結　　論

（要点）

①職業意識の高まり。

②職業（司書）への理解を促進した。

③授業参加の意欲を高めることになった。

④役割モデルとなる大人たちとの接触。

この3人の学生の事例を分析すると図書館実習のプロセスはまさに思考と行動のプロセスそのものである。「なぜ働くのか」「自分が就く職業にはどのような意味があるのか」を実習を通じて考え、感じ、経験、また考えている様子がよくわかる。

職業選択の手がかりにもなっていることがわかる。「人と接することが好きである」「静かな環境」「じっとしているのは性に合わない」という言葉はまさに学生たちが実感をもって、思考していることの証拠である。

また学生たちの成長を容易にするための役割モデルとなる大人たちとの接触の機会[14]となっている点も重要である。役割モデルとは学生自身が成長していくと、このような大人たちになるであろう(またはなりたい)というモデルのことである。また、実習を終え、短大に戻った後の授業への意識や姿勢はアンケートの結果から明らかなように積極的になっている。

もう一つ、興味深い点は図書館を経験しながら、他業種・他職種への関心を寄せていることである。

これは図書館業務が一般的なサービス企業や製造企業と比較すると構造的な類似点があることに起因していると思われる。

図書館業務	一般企業の業務	業務の対象
閲覧・レファレンスサービス	対人サービスや営業・販売	人間
資料の整理業務	事務・製造業における生産工程	モノまたは情報

図書館業務は業務対象を人間とするものとモノや情報を対象とするもの、2種類に分類することができる。人間を対象とする業務は企業ではホテルや娯楽などサービス業や営業や販売といった部署に対応する。その現場で感じる緊張感や達成感はある程度共通する部分がある。モノまたは情報を対象とする業務でも同様である。

他の職種と図書館司書を対比させながら、自分の適性を探っていることは大変興味深い。これは司書課程の授業のなかで、両者を比較しながら、講義を行っているためであると思われる。

以上にように図書館実習は授業で学んだことを実感させ、職業を探索する過程として機能していることがわかってきた。

そのためには学生自身の興味や関心のある職業を実習先として選択させることが必要である。デューイも次のように述べている。「初期の職業への準備教育をすべて直接的であるよりもむしろ間接的なものにすること、すなわち、生徒のその時の要求や興味が必要とする活動的作業に従事させることを通して行うことである。この方法によってのみ、教育者の側も被教育者の側も、本当に本人自身の適性を発見して、その

後の生活における専門化された仕事の正しい選択を行うことができるようになるのである。」[15]

事例の学生たちはデューイの理論をまさに実証することになった。しかし働くことやインターンシップに消極的な学生たちを強制ではなく、自然に希望して参加し、自分の適性を知るための教育方法の確立が今後の課題である。

最後に実習生を快く受け入れてくださった図書館、学校の皆様に心より感謝申し上げます。(了)

10章　付録資料「図書館実習に関するアンケート調査16」

(学生A)　実習受入先：公共図書館・大学図書館

Ⅰ．図書館実習の内容や経験に関わる質問

1．図書館実習先（複数回答可）に○をつけてください。

公共図書館・学校図書館（中学・高校）・大学図書館

2．実習の業務内容に○をつけてください。(複数回答可)

カウンター業務・書架整理・レファレンスサービス・読み聞かせ・目録作業・受入作業・装備業務・広報誌作成・その他（　　）

3．上記の中で、最も興味を持った業務はどれですか。○をつけてください。その理由も記述してください。

カウンター業務・書架整理・レファレンスサービス・読み聞かせ・目録作業・受入作業・装備業務・広報誌作成・その他（　　）

理由：お客様のニーズに応えるために自分で様々な本や資料を見るが、ニーズのためと同時に自分自身更なるレファレンスで使えそうな本を学べたり、辞書の見方等も学ぶことができるため。

4．もっとも難しいと感じた業務は何ですか。○をつけてください。

その理由も記述してください。

カウンター業務・書架整理・レファレンスサービス・読み聞かせ・目録作業・受入作業・装備業務・広報誌作成・その他（　　）

理由：分類の難しい（どこに分類するのが良いか）本があるととまどってしま

い悩んでしまったため。

5．あなたは職員や先生方に対して、朝と帰宅する際の挨拶はできましたか。○をつけてください。

YES　NO

6．あなたは職員や先生方のご指導や説明を理解できましたか。○をつけてください。

YES　NO　どちらでもない

7．実習中、わからない事柄が発生した場合に、職員や先生方に質問はできましたか。○をつけてください。

YES　NO

8．あなたは図書館の利用者にたいして、挨拶ができましたか。○をつけてください。

YES　NO

9．あなたは図書館の利用者の質問を理解できましたか。○をつけてください。

YES　NO　実際のレファレンスサービスは行いませんでしたが、問題を解いてみた時は、質問の意味を理解し解答をまとめることができました。

10．あなたは図書館の利用者の要望に応えることができましたか。○をつけてください。

YES　NO　同上

Ⅱ．図書館実習の影響に関する質問

11．図書館実習後、図書館に対するイメージは変りましたか。○をつけてください。

YES　NO

12．11でYESと回答した人に質問します。具体的にどのようなところが変わりましたか。自由に記述してください。

（小さい子が読み聞かせを聞きにきたり、学生が勉強をしに来たり、年輩の方が新聞を読みにきたり、人それぞれ様々な目的をもった人たちが１つの場所に集まり思いおもいの時間を過ごしているところを目の当たりにして、実際は静

かだけれども、どこか明るく楽しい、あたたかい空間だなと感じました。

13. 司書に対するイメージは変わりましたか。○をつけてください。

YES　NO

14. 13でYESと回答した人に質問します。具体的にどのようなところが変わりましたか。自由に記述してください。

（ほとんどカウンターにいたり、ほとんど座って物静かに仕事をする人というイメージでしたが、実際は重い本を持ち、動き回ることもあるし、仕事の内容がたくさんあり、頭も体もよく使うハード！？な人であると思いました。）

15. 図書館実習後、授業に対する姿勢や取り組み方は変わりましたか。○をつけてください。

YES　NO

16. 15でYESと回答した人に質問します。具体的にどのようなところが変わりましたか。自由に記述してください。

（ひとつひとつの業務には別の業務の上で活かすことのできる(繋がっている)意味をふくまれているということを学ぶことができ、1時間1時間の講義内容(特に演習)に対しての見方や考え(追求する気持ち)が強くなり(広がり)ました。）

17. 図書館実習経験後、「社会人として働く」ことに対して、あなたのイメージや考えは変りましたか。○をつけてください。

YES　NO

18. 17でYESと回答した人に質問します。具体的にどのようなところが変わりましたか。自由に記述してください。

（どのような仕事であっても同じ職場の仲間との協力が大切、必要であると感じました。）

19. 卒業後の進路（活動中の人は進路の希望）が決まっている人に質問します。就職または進学先（進路の希望）を決めた理由を教えてください。

(就職の場合)

業種：サービス業・小売業・製造業・金融・その他（　　）

理由：司書に関して勉強不足を感じていたとともに、これまであまり目を向けるこ

とのなかった業界に目を向けてみたいと思ったため。また、いつか司書として働きたいと思っているため、人と接すること、社会で出るということに関して金融業界で学んだことを司書になって活かせることもあると思ったため。

（進学の場合）

学校：四年制大学編入・専門学校・そのほか（　　）

理由：（　　）

20. 卒業後の進路（活動中の人は進路の希望）が決まっている人に質問します。就職先また進学先を決めた理由に**図書館実習の経験**は少しでも影響を与えましたか。（例：「自分は人と接する仕事が好きであることがわかった」「自分は事務職に向いている」「図書館の仕事には向いていない」「もっと勉強したい」など）

YES　NO

21. 20でYESと回答した人に質問します。その影響について具体的に自由に記述してください。

（落ち着いた（静かな）環境での仕事が向いていると思った。お客様（人）のために、実際に接しながら行う仕事が好きであると思った。）

22. 卒業後、機会があれば図書館司書として働いてみたいですか。

YES　NO

*　*　*　*　*　*　*　*

（学生B）実習受入先：公共図書館、学校（高校）図書館

Ⅰ.図書館実習の内容や経験に関わる質問

1．図書館実習先（複数回答可）に○をつけてください。

公共図書館・学校図書館（中学・高校）・大学図書館

2．実習の業務内容に○をつけてください。（複数回答可）

カウンター業務・書架整理・レファレンスサービス・読み聞かせ・目録作業・受入作業・装備業務・広報誌作成・その他（コーナー展示）

3．上記の中で、最も興味を持った業務はどれですか。○をつけてください。その理由も記述してください。

カウンター業務・書架整理・レファレンスサービス・読み聞かせ・目録作業・受入作業・装備業務・広報誌作成・その他（　　）

理由：公共図書館では体験できなかった広報誌を作成させていただきました。「実習生」ならではの広報誌ができたと思います。

4．っとも難しいと感じた業務は何ですか。○をつけてください。
その理由も記述してください。

カウンター業務・書架整理・レファレンスサービス・読み聞かせ・目録作業・受入作業・装備業務・広報誌作成・その他（コーナー展示）

理由：テーマに沿ったコーナーを作り、画用紙やPOPカードなどで飾りつけしたり、選書するのが、大変だったので。

5．あなたは職員や先生方に対して、朝と帰宅する際の挨拶はできましたか。○をつけてください。

YES　NO

6．あなたは職員や先生方のご指導や説明を理解できましたか。○をつけてください。

YES　NO　どちらでもない

7．実習中、わからない事柄が発生した場合に、職員や先生方に質問はできましたか。○をつけてください。

YES　NO

8．あなたは図書館の利用者にたいして、挨拶ができましたか。○をつけてください。

YES　NO

9．あなたは図書館の利用者の質問を理解できましたか。○をつけてください。

YES　NO

10．あなたは図書館の利用者の要望に応えることができましたか。○をつけてください。

YES　NO

Ⅱ. 図書館実習の影響に関する質問

11. 図書館実習後、図書館に対するイメージは変りましたか。○をつけてください。

YES　[NO]

12. 11でYESと回答した人に質問します。具体的にどのようなところが変わりましたか。自由に記述してください。

（　　）

13. 司書に対するイメージは変わりましたか。○をつけてください。

YES　[NO]

14. 13でYESと回答した人に質問します。具体的にどのようなところが変わりましたか。自由に記述してください。

（　　）

15. 図書館実習後、授業に対する姿勢や取り組み方は変わりましたか。○をつけてください。

[YES]　NO

16. 15でYESと回答した人に質問します。具体的にどのようなところが変わりましたか。自由に記述してください。

（実習中に利用者の方から聞かれた質問に、ほとんど答えられなかったので、レファレンスサービスについて、もっと知らなければならない事がたくさんあると感じました。「レファレンスブックスの評価」など、取り組む姿勢が少し変わったのではないかと思います。）

17. 図書館実習経験後、「社会人として働く」ことに対して、あなたのイメージや考えは変りましたか。○をつけてください。

YES　[NO]

18. 17でYESと回答した人に質問します。具体的にどのようなところが変わりましたか。自由に記述してください。

（　　）

19. 卒業後の進路（活動中の人は進路の希望）が決まっている人に質問します。就職または進学先（進路の希望）を決めた理由を教えてください。

（就職の場合）

業種：サービス業・小売業・製造業・金融・その他（　　）

理由：自分の能力を最大限に活かせそうだから。

（進学の場合）

学校：四年制大学編入・専門学校・そのほか（　　）

理由：（　　）

20. 卒業後の進路（活動中の人は進路の希望）が決まっている人に質問します。就職先また進学先を決めた理由に**図書館実習の経験**は少しでも影響を与えましたか。（例：「自分は人と接する仕事が好きであることがわかった」「自分は事務職に向いている」「図書館の仕事には向いていない」「もっと勉強したい」など）

YES　NO

21. 20でYESと回答した人に質問します。その影響について具体的に自由に記述してください。

（実習中に「事務に向いているかもしれない」と感じました。でも結局はサービス業が向いていることに気付きました。）

22. 卒業後、機会があれば図書館司書として働いてみたいですか。

YES　NO

*　*　*　*　*　*　*　*

（学生C）実習受入先：公共図書館、学校図書館（高校）

Ⅰ．図書館実習の内容や経験に関わる質問

1．図書館実習先（複数回答可）に○をつけてください。

公共図書館・学校図書館（中学・高校）・大学図書館

2．実習の業務内容に○をつけてください。（複数回答可）

カウンター業務・書架整理・レファレンスサービス・読み聞かせ・目録作業・受入作業・装備業務・広報誌作成・その他（蔵書点検）

3．上記の中で、最も興味を持った業務はどれですか。○をつけてください。その

理由も記述してください。

カウンター業務・書架整理・[レファレンスサービス]・読み聞かせ・目録作業・[受入作業]・装備業務・広報誌作成・その他

理由：（授業で教わったことの実践でした。教わっただけでよくわからなかったことも、体験することで考え方が変わりました。）

4．もっとも難しいと感じた業務は何ですか。○をつけてください。

その理由も記述してください。

カウンター業務・書架整理・[レファレンスサービス]・読み聞かせ・目録作業・受入作業・装備業務・[広報誌作成]・その他（　　）

理由：慣れない作業などで戸惑うことが多かった。手の抜けない、とても大切な業務だと思います。

5．あなたは職員や先生方に対して、朝と帰宅する際の挨拶はできましたか。○をつけてください。

[YES]　NO

6．あなたは職員や先生方のご指導や説明を理解できましたか。○をつけてください。

[YES]　NO　どちらでもない

7．実習中、わからない事柄が発生した場合に、職員や先生方に質問はできましたか。○をつけてください。

[YES]　NO

8．あなたは図書館の利用者にたいして、挨拶ができましたか。○をつけてください。

[YES]　NO

9．あなたは図書館の利用者の質問を理解できましたか。○をつけてください。

[YES]　NO

10．あなたは図書館の利用者の要望に応えることができましたか。○をつけてください。

YES　NO　（どちらとも言えないです。がんばったつもりでいます。）

Ⅱ. 図書館実習の影響に関する質問

11. 図書館実習後、図書館に対するイメージは変りましたか。○をつけてください。

    YES　NO

12. 11でYESと回答した人に質問します。具体的にどのようなところが変わりましたか。自由に記述してください。

    （想像していたよりも肉体労働でした。理想はなかなか実現されていないと感じました。）

13. 司書に対するイメージは変わりましたか。○をつけてください。

    YES　NO

14. 13でYESと回答した人に質問します。具体的にどのようなところが変わりましたか。自由に記述してください。

    （学校の司書の先生について、何も知らなかったということを知りました。）

15. 図書館実習後、授業に対する姿勢や取り組み方は変わりましたか。○をつけてください。

    YES　NO

16. 15でYESと回答した人に質問します。具体的にどのようなところが変わりましたか。自由に記述してください。

    （実習に行った後ではやる気が変わります。）

17. 図書館実習経験後、「社会人として働く」ことに対して、あなたのイメージや考えは変りましたか。○をつけてください。

    YES　NO

18. 17でYESと回答した人に質問します。具体的にどのようなところが変わりましたか。自由に記述してください。

    （　　）

19. 卒業後の進路（活動中の人は進路の希望）が決まっている人に質問します。就職または進学先（進路の希望）を決めた理由を教えてください。

（就職の場合）

業種：サービス業・小売業・製造業・金融・その他（　　）

理由：必ずしも司書になれるわけではないという、市の職員にはなりたくなかった。

（進学の場合）

学校：四年制大学編入・専門学校・そのほか（　　）

理由：（　　）

20. 卒業後の進路（活動中の人は進路の希望）が決まっている人に質問します。就職先また進学先を決めた理由に**図書館実習の経験**は少しでも影響を与えましたか。（例：「自分は人と接する仕事が好きであることがわかった」「自分は事務職に向いている」「図書館の仕事には向いていない」「もっと勉強したい」など）

YES　NO

21. 20でYESと回答した人に質問します。その影響について具体的に自由に記述してください。

（お客様（利用者）の方と直接かかわれる仕事に向いていると気づいた。机にずっと座っているのには性にはあわない）

22. 卒業後、機会があれば図書館司書として働いてみたいですか。

YES　NO

註

[1]古閑博美編著．インターンシップ－職業教育の理論と実践．学文社，2001年，p10

[2]文部科学省．大学等における平成17年度インターンシップ実施状況調査について．（http://www.mext.go.jp/）最終アクセス：2007年1月21日

[3]デューイ，松野安男訳．民主主義と教育(上)．岩波書店，1975年(岩波文庫33-652-3) p25

[4]デューイ前掲書（上）p35

[5]デューイ前掲書（上）p42-43

[6]デューイ前掲書（上）p21

[7]デューイ，松野安男訳．民主主義と教育(下)．岩波書店，1975年(岩波文庫33-652-4)

p188

[8]デューイ前掲書（上）p170

[9]デューイ前掲書（下）p174

[10]デューイ前掲書（下）p173

[11]椿明美．新規学卒者のキャリア形成－短期大学における職業教育－．國學院短期大学紀要，　Vol.20(20030315)pp. A91-A107

[12]文部科学省．特色ある大学教育支援プログラム事例集．大学基準協会「特色ある大学教育支援プログラム」実施委員会，2006年

[13]日本図書館情報学会．「Liper報告書」2006年（http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/）最終アクセス：2007年3月21日

[14]リン・オールソン著　渡辺三枝子他翻訳．インターンシップが教育を変える?教育者と雇用主はどう協力したらよいか．雇用問題研究会，2000年，p21

[15]デューイ前掲書（下）p176

[16]木内公一郎．図書館実習に関するアンケート調査．2006年11月16日実施
回収総数11件（20件）より３人分を抽出した。